

東京理科大学ワンダーフォーゲル部 OB 会 50 周年記念イベント

山岳リレー班山行報告

日時：2009 年 9 月 23 日

場所：上高地～徳本峠～新島々

メンバー：藤原 豊(s46)、小沢 昭仁、木村 堅治、藤田 幸紀(s50)

ワンゲル OB 会 50 周年記念イベントのうち、山岳リレー班北アルプス山域最終部である上記範囲を近年はやりのトレイルラン形式で走破することとなった。メンバーのうち藤原以外は前日まで槍穂高連峰の縦走から下山し、上高地小梨平キャンプ場にてテント泊。藤原は、行動終了予定の新島々にて車中泊し、早朝のシャトルバスにて上高地入りし、小梨平にて合流した。藤原、木村は必要最小限の装備にてトレイルランへ向かい、小沢、藤田は全装備を持ってシャトルバスで車デポ地である沢渡へ。そこから島々谷沿いに遡り藤原、木村と落合い、小沢、木村が新島々までのロードランを行った。

<9 月 23 日>

上高地小梨平(8:00)－明神(8:20)－黒沢最終水場(8:45)－霞沢岳分岐(9:30)－徳本峠(9:35)
－岩魚留沢(11:00)－二俣(12:20)－ゲート(12:45)－矢嵩沢分岐(13:10)

かすかな雨の中、とりあえず雨具の上だけ羽織ってスタート。ほとんど平らな道を形だけでもランニングで進む。明神館通過タイムを見るとかなりハイペース。この調子ではどこまで持つか心配しながら徳沢方面へのメインルートから離れて走る。走る。が、1.5km も進むと傾斜が急になり当然歩きへと移行。あとは徳本峠までいくらか早歩きで到着。

峠の小屋は現在新築（増築？）中だが、年内の完成は無理なよう。晴れていれば穂高が目の前に聳えているはずだが全く気配が無くおにぎりを食べて早々に出発。

峠までの道と比べて下りはほとんど踏み跡に近い状態。やはり利用する人が少ないようである。急な心細い道を左右に振られて一気に 400m ほど下り、勢いで岩魚留沢橋へ。この橋は下部を鉄骨で構築してあり場違いなほど立派。その袂に岩魚留小屋が正に廃屋となって建っている。少し進むとやはり次の立派な橋のところを溪流釣りの二人組を発見。溪流釣りの人というのはどんな山奥にも入り込むものだと感じ。地図によるとここから先はほとんど斜度が無さそうだが、倒木や崩壊がいくつもあり何度か道を探す必要があった。

二俣には立派なトイレが建てられている。北沢方面への二俣トンネルで小休止ののち、小沢、藤田の待つであろう砂防ダム上流のゲートに向かってもうひと頑張り。ところが、ゲートに着いても両名の影も形も車も無い。いずれすれ違おうであろうと下流に向かって歩き出す。2km も行くと小沢車発見。中をのぞくと両名がスヤスヤ。

ここからは、小沢、木村が新島々へ向かってロードラン。藤田は縦走で立派なマメを作ったため運転手。島々谷を約 2km で R158。歩道をサルが先導したりして 14:00 新島々駅へ無事到着。竜島温泉で汗を流し、若手 3 名は翌日の仕事のため帰宅。藤原は一刻もはや喉を潤すためしじま山荘へ。

<総括>

レース以外で初めてトレイルランを行ったが景色も全く目に入らず、ただルート発見と足元をにらむだけで後から考えても何処をどう進んだのかほとんど印象がない。達成感はあるが。ただ、極力荷物を軽くし、足回りもトレイルランシューズでの山歩きはスピードアップが可能なので日帰り山行の範囲が広がる可能性もある。

さて、あとは南アルプス入山地点までのロードランにバトンタッチします。

(2009.09.28 記 藤原)